

平成 2 4 年 9 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

## 自然観察としての星空

今年(2012 年)、8 月 12 日の深夜から 13 日の明け方にかけて、奥多摩の御前山(1,405m)中腹で、ペルセウス座流星群の観測を試みました。

ペルセウス座流星群は、毎年 8 月中旬を中心に、ペルセウス座という星座から流星が四方に流れ出す天文現象です。毎年安定した出現が見られ、最大時には好条件だと 1 時間当たり数十個の流星が流れます。現在知られている流星群の中では、出現数の多いものとして知られ、今年の出現のピークは、8 月 12 日 21 時と予報されていました。

今年、観測の当夜は生憎雲が多く、時折訪れる雲の切れ目から星空が覗ける、という状態です。ただ、雲の切れ目からは天の川や 5 等星程度の星は見えていました。肝心の流星は雲に遮られ、時折見えるのみで、観測というほどのデータは得られませんでした。しかし例年並みの出現はあったようです。後日、12 日の夜はかなり活発な出現があった、との情報がありました。

流星観測は、流星の個々の出現時刻や明るさ、継続時間、経路などを丹念に記録していきます。時間と体力を消耗する観測ですが、最近ではアマチュアでも電波観測や自動テレビ観測等を行えるようになり、天候や昼夜に左右されない効率的な観測データを得られるようになりました。こうしたデータからは、太陽系内の微小天体の密度や、流星の元になる母天体の軌道などが求められ、太陽系の状態や変化を考えるヒントにもなります。天体観測では、他にも変光星や惑星面の常時観測等の分野で、アマチュアが貴重なデータを提供しています。アマチュアでも天文学に大きな貢献の出来ることは、趣味としての天体観測を続けることの楽しさにもなります。

今回、私が奥多摩の山中でペルセウス座流星群を見る計画を立てたのは、私の自宅周辺（新町）ではきれいな星空を見ることは難しくなったからです。今から 30 年ほど前までは、自宅横の空き地からでも天の川がはっきりと見えました。畑や民家や奥多摩の山並みの上に星座が広がり、時間と共に刻々と動いていました。星好きの間で「星景」という言葉が使われます。星の見える風景という意味で、星景写真を撮る人もいます。夜間の人目に触れにくい風景ですが、風景は昔と今では大きく変わっています。星を見ることの記録は天文学だけでなく、環境の変化を知る上でも有益なのではないかと思います。

出現数の多い流星群は、星に関心を持つきっかけになります。これから、12 月中旬に

ふたご座流星群、1月上旬にはしぶんぎ座流星群が活動します。条件が良ければ、ペルセウス座流星群並の出現が期待できます。寒くはなりますが、澄んだ夜空に一瞬流れる流星は、星景の点景としても楽しむことができます。 (文責 櫻岡 幸治)